

PS Japan

製品安全データシート

製品名:PSJ-ポリスチレン HH203 (自然色)
 MSDS 整理番号:G104
 作成:2003/4/1
 改訂:2007/12/17

1/7

1. 製品及び会社情報

製品名	PSJ-ポリスチレン HH203 (自然色)
MSDS 整理番号	G104
会社名	PSジャパン株式会社
住所	〒112-0002 東京都文京区小石川1-4-1 住友不動産後楽園ビル18F
担当部門	RC推進部
電話番号	03-5689-6542
FAX 番号	03-5689-6544
E-メールアドレス	QAROOM@ps.jp.com
緊急連絡先	研究開発部 (11号)
電話番号	044-271-2584
推奨用途及び使用上の制限	成形材料 (「16. その他の情報」を参照のこと)

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	分類対象外または区分外
健康に対する有害性	
急性毒性 (経口)	分類できない
急性毒性 (経皮)	分類できない
急性毒性 (吸入:気体)	分類対象外
急性毒性 (吸入:蒸気)	分類対象外
急性毒性 (吸入:粉塵) (ミスト)	分類できない 分類対象外
皮膚腐食性・刺激性	分類できない
眼に対する重篤な損傷・ 眼刺激性	分類できない
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)	分類できない (中枢神経系) 分類できない (気道刺激性)
特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)	分類できない (呼吸器、神経系、血液系、肝臓)
吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	
水生環境急性有害性	分類できない
水生環境慢性有害性	分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル	なし
注意喚起語	なし
その他の危険有害性	
健康への有害性	高温加工時の発生ガスを多量に吸入すると、頭痛、倦怠感、吐き気、食欲

PS Japan

製品安全データシート

製品名:PSJ-ポリスチレン HH203 (自然色)

MSDS 整理番号:G104

作成:2003/4/1

改訂:2007/12/17

2/7

環境影響

不振等の中毒症状を起こす可能性がある。

物理的及び化学的危険性

水系へ漏出した場合は、鳥類、魚類等へ悪影響を及ぼす可能性がある。

消防法の指定可燃物である。

粉末状の樹脂が存在する時は、粉塵爆発の可能性がある。

加熱された樹脂によるやけどに注意する。

分類の名称 (分類基準は日本方式)

危険有害性分類基準 (1993年 通産・厚生省告示) に該当しない。

注意書き

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。

個人用保護具や換気装置を使用し、ばく露を避けること。

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

換気の良い区域でのみ使用すること。

加熱時のガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

環境への放出を避けること。

火災の場合には適切な消火方法をとること。

吸入した場合: 空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合: 水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。

皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。

飲み込んだ場合: 無理に吐かせないこと。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚刺激があれば、医師の診断、手当てを受けること。

容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別

単一製品

化学名

ポリスチレン

一般名

スチロール樹脂、GPPS

成分及び含有量

成分	含有量	化学式	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS No.
ポリスチレン	95%以上	$-(C_6H_5)_n-$	6-120	9003-53-6
流動パラフィン	1~5%	-	9-1692	8042-47-5

危険有害成分

危険有害性分類基準 (1993年 通産・厚生省告示) 該当しない

化学物質管理促進法

該当しない

労働安全衛生法 (57条の2: 通知対象物質)

該当しない

4. 応急処置

吸入した場合

高温の溶融樹脂から発生するガスを吸入して気分が悪くなった時は、新鮮な空気のある場所に移り回復を待つ。気分が回復しない場合は、医師の手当てを受ける。

PS Japan

製品安全データシート

製品名:PSJ-ポリスチレン HR203 (自然色)
 MSDS 整理番号:G104
 作成:2003/4/1
 改訂:2007/12/17 3/7

皮膚に付着した場合	ペレットや粉末の場合は、石鹸・水で洗い流しておく。 高温の溶融物からの発生ガスの凝縮物が付着したら、石鹸水でよく洗う。 溶融物が付着した場合には、衣服の上から大量の水をかけ十分に冷却し、衣服を脱がせ医師の手当てを受ける。
目に入った場合	目に入った場合、こすると刺激があったり、角膜を傷つけたりするので、こすらずに清浄な水で最低15分間十分に洗い流す。 コンタクトレンズは直ちに取り外す。異常を感じるようであれば眼科医の手当てを受ける。
飲み込んだ場合 予想される急性症状及び避発性症状 並びに最も重要な兆候及び症状 応急措置をする者の保護	無理に吐かせず、異常を感じるようであれば医師の手当てを受ける。 知見なし。 溶融物を除去する際には、やけどをしないよう手袋等の保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤	注水、水噴霧、粉末消火剤、二酸化炭素、泡消火剤
特有の危険有害性	火災時には、熱分解や不完全燃焼により、黒煙と有害な酸化炭素、スチレン等の揮発分を含有するガスが発生するので注意する。
特有の消火方法	消火作業は可能な限り風上から行う。 移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。 火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。 消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置をする。 初期消火には水、粉末消火剤を用いる。大規模火災の場合は、耐アルコール泡で一挙に消火する。容器周辺が火災のときは、容器を安全な場所に移動する。移動ができないときは、容器に水を注水して冷却する。
消火を行う者の保護	消火作業をするときは、防火服と呼吸器具を着用する。

6. 漏洩時の措置

人体に対する注意事項	ペレット、粉末共に床面に残るとすべる危険性が高いため、こまめに処理する。
保護具及び緊急時措置	作業の際は適切な保護具を着用し、粉塵、ガス(高温時)を吸入しないようにする。
環境に対する注意事項	流出した製品が海洋、河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 ¹⁾
回収・中和 二次災害の防止策	飛散したものを掃き集めて紙袋またはドラムなどに回収する。 付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
技術的対策	粉末状の樹脂が存在する時は、粉塵を吸い込まないようにする。 ペレット状の樹脂は、常温では引火、爆発の恐れは無いが、いったん火災が発生すると火勢拡大が速く、消火活動が困難になる。このため作業場では火気をみだりに使用する事を避け整理整頓に努める。 粉末状の樹脂が存在する時は、粉塵爆発の可能性があるので、これらの滞留を避ける。空気移送、バグフィルター、ホッパー等の設備は静電気を除

PS Japan

製品安全データシート

製品名:PSJ-ポリスチレン HH203 (自然色)
 MSDS 整理番号:G104
 作成:2003/4/1
 改訂:2007/12/17 4/7

注意事項	<p>去するための接地を行う。 床上にこぼれたペレット等は、常に清掃して取り除く。 取扱いは換気のよい場所で行う。取扱い後は、石鹸を用いて、手洗い、洗顔を行う。</p>
安全取扱い注意事項	<p>熔融した樹脂を大気中に放置しない。 過度に加熱すると分解し有害ガスが発生するおそれがあるため、熔融した樹脂を大気中に暴露しないように注意する。やむを得ず、大気中にさらす場合には、ガスを吸入しないよう換気を十分に行う。</p>
保管	
技術的対策	火気注意
適切な保管条件	<p>直射日光が当たらない場所に保管する。 熱源、発火源から離れた場所に保管する。 高温多湿な場所を避けて保管する。</p>
混触禁止物質	特になし
安全な包装材料	十分な強度をもった紙袋、樹脂コーティングされた合成繊維袋、ステンレスあるいはアルミ等の金属缶など。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策	<p>粉塵を発生させるような取扱いをする場合には、密閉された装置、機器、又は局所排気装置を使用する。取扱い場所の近くに洗身シャワー、手洗い、洗眼設備を設けることが望ましい。 高温加工時に空気中に開放される部分でガスが発生するので、快適な作業環境を得るため局所排気等を設けるのが望ましい。</p>
管理濃度 許容濃度	<p>設定されていない。(労働省告示第26号 1995.3.27) 日本産業衛生学会とACGIHはともに、ポリスチレンの粉塵に関する許容濃度を定めていないが、次の値を準用するのが妥当と考えられる。 日本産業衛生学会(2006年)第三種粉塵 $2\text{mg}/\text{m}^3$ (吸入性粉塵) $8\text{mg}/\text{m}^3$ (総粉塵) ACGIH(1996年)一般粉塵(Nuisance Dust) $3\text{mg}/\text{m}^3$ (Respirable) $10\text{mg}/\text{m}^3$ (Inhalable)</p>

保護具

呼吸器の保護具	<p>樹脂製品の機械加工など粉塵の発生する作業の時には、防塵マスクを着用する。 発生ガスを吸入する可能性のある場所で作業する場合は、有機ガス用マスクを着用する。</p>
手の保護具	<p>ペレットを扱う時は特に必要ないが、熔融樹脂を取り扱う時は、耐熱性の良い手袋を着用する。</p>
目の保護具	<p>樹脂製品の機械加工など粉塵の発生する作業の時には、保護眼鏡を着用する。保護眼鏡は、樹脂製が望ましい。</p>
皮膚及び身体の保護具	<p>保護服(長袖作業衣)、保護長靴、保護服等</p>

9. 物理的及び化学的性質

外観

形状	固体 (ペレット状)
----	------------

PS Japan

製品安全データシート

製品名:PSJ-ポリスチレン HH203 (自然色)
 MSDS 整理番号:G104
 作成:2003/4/1
 改訂:2007/12/17

5/7

色	無色透明 (着色していないもの)
臭い	なし (溶融状態では、わずかにスチレン臭がある。)
pH	該当しない
融点	明確な融点はないが、広い温度範囲 (80°C位から) で次第に柔らかくなる。
沸点	該当しない
引火点	345~360°C ²⁾
爆発範囲	粉塵爆発性あり (粉末状の場合)
蒸気圧	該当しない
蒸気密度	該当しない
密度	約1050 kg/m ³
溶解度	
水	不溶
その他の溶媒	メチルエチルケトン、トルエン等に可溶
n-オクタノール/水分配係数	該当しない
自然発火温度	488~496°C ²⁾
分解温度	200°C以上で徐々に分解する。
臭いの閾値	知見なし
蒸発速度	該当しない
燃焼性	可燃

10. 安定性及び反応性

安定性	一般的な貯蔵、取り扱いにおいて安定。
可燃性	あり (燃焼熱 : 4.02×10^7 J/kg (9604 kcal/kg) ²⁾)
自然発火性	一般的な貯蔵、取り扱いにおいてなし
酸化性	一般的な貯蔵、取り扱いにおいてなし
危険有害反応危険性	
自己反応性・爆発性	なし
水との反応性	なし
避けるべき条件	過度に加熱すると分解し有害ガスが発生するおそれがあるため、溶融した樹脂を大気中に暴露しないように注意する。
混触危険物質	特になし
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、スチレン等。 但し、完全燃焼すれば有害ガスは出ないとされている。

11. 有害性情報

本製品についてのデータは無いが、参考として以下のデータを示した。

ポリスチレン

急性毒性	知見なし
皮膚腐食性・刺激性	知見なし
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	知見なし
呼吸器感受性	知見なし
皮膚感受性	知見なし
生殖細胞変異原性	知見なし

PS Japan

製品安全データシート

製品名:PSJ-ポリスチレン HH203 (自然色)

MSDS 整理番号:G104

作成:2003/4/1

改訂:2007/12/17

6/7

発がん性	IARCのグループ3 (人に対する発がん性は評価できない) に分類されている。 ⁵⁾
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性 (単回暴露)	分類できない (中枢神経系) 分類できない (気道刺激性)
特定標的臓器・全身毒性 (反復暴露)	分類できない (呼吸器、神経系、血液系、肝臓)
吸引性呼吸器有害性	分類できない
亜急性毒性	経口ラット飼料中に4%配合し、55週間摂食させたが、影響なし。 ³⁾
慢性毒性	経口ラット飼料中に5%配合し、2年間摂食させたが、影響なし。 ⁴⁾

12. 環境影響情報

残留性/分解性	知見なし
生体蓄積性	知見なし
生体毒性	
魚	知見なし
その他の生物	知見なし
土壌中の移動性	知見なし
その他の注意事項	海洋生物、鳥類が摂取することを防止するため、いかなる海洋や水域でも投棄、放出してはならない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄物は原則として焼却又は埋立てによって処理する。 焼却する時は、焼却設備を用いて大気汚染防止法等に適合した処理を施し焼却する。埋立てる時は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って処理をする。 または、都道府県知事の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理する。 残余廃棄物と同等の措置をとる。
汚染容器・包装	

14. 輸送上の注意

国連番号	—
国連輸送名	—
国連分類	国連勧告の定義上危険物に該当しない
容器等級	—
海洋汚染物質	該当しない
国内法規制	消防における指定可燃物に該当するので、同法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。 <消防法：指定可燃物(合成樹脂類)>
輸送の特定の安全対策及び条件	輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。 転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷くずれ防止を確実にを行う。 梱包袋が破れないように、水濡れや乱暴な取扱いを避ける。破袋してペレットが飛散した場合は、滑って転倒しないように注意する。流出したものは速やかに全量回収する。 空気移送の場合は、移送速度を低くしたり確実な接地を行うなどして静電気災害防止を確実に実施する。火気を避ける。

PS Japan

製品安全データシート

製品名:PSJ-ポリスチレン HH203 (自然色)
MSDS 整理番号:G104
作成:2003/4/1
改訂:2007/12/17 7/7

15. 適用法令

消防法 <第9条の3> 指定可燃物, 合成樹脂類 (その他のもの) (3,000kg 以上)
(3,000kg 以上の貯蔵に関しては市町村条例の定めに従う必要がある。)

16. その他の情報

1. 弊社は、本製品の医療機器・医薬用途中、下記用途への使用は固くお断り致します。
 - * 人体中に埋め込まれて使用される用途(インプラント用途)
 - * 30日以上連続して、人体(含む血液・体液等)に接触する用途
2. 上記外の医療機器・医薬用途および安全保護具、重要保安部品、乳幼児関連部品等重要度が高い用途への使用に関しては、弊社営業部または、開発営業部にご相談下さい。
(連絡先 TEL: 03-5689-6564, FAX: 03-5689-6566)
3. 上記2. 項の用途への使用に関しては、弊社の同意なく使用されることを固くお断り致します
4. 弊社の同意なく使用され、製品の安全性に関わる不具合(製造物責任法上の問題も含む)が生じた場合、弊社は一切の責任を負いかねますので、ご了承お願い申し上げます。
5. 記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。また、注意事項は通常取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合は、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。本製品以外の資材にてご使用になる配合材、添加剤等の安全性については、貴社にて調査願います。

引用文献・参考文献

- 1) 樹脂ペレット流出防止マニュアル/日本プラスチック工業連盟(1993年5月)
- 2) プラスチック・データハンドブック/工業調査会(1980年)
- 3) I. Phillips and G. C. Marks : British Plastics, 385 ~390(1961 July)
- 4) A. M. Thiess, N. Friendheim and H. Rossman : Polymer Preprint, 17, 35 ~39(1976)
- 5) IARC MONOGRAPHS Supplement No. 7 Overall evaluation of carcinogenicity: An updating of IARC Monographs, Volumes 1~42 (1987)

大同硝子興業株式会社 御中

製品安全データシート

管理番号: PA4-0303

整理番号: 14A-4043

作成: 2014年1月23日

1. 化学物質等及び会社情報

製品名 : ポリクールマスターEPS-R-28789
 会社名 : ポリクール興業株式会社
 本社工場 : 〒339-0045 さいたま市岩槻区柏崎135
 担当部門 : 岩槻工場 品質保証部
 電話番号/FAX : 048(756)3141 / 048(756)3114
 緊急時連絡先 : 同上
 推奨用途及び使用上の制限 : 成形材料

2. 危険有害性の要約

GHS分類 : GHS分類に該当しない。
 GHSに該当しない他の危険有害性 : 消防法の「指定可燃物」である。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分 : 混合物
 化学名又は一般名 : 合成樹脂用着色剤

成分	含有量(%)	官報公示整理番号	CAS.NO
ポリスチレン	93.0~97.0	(6)-134	9003-55-8
酸化チタン	0.1~0.3	(1)-558	13463-67-7
ステアリン酸亜鉛	0.2~0.5	(2)-615	557-05-1
その他、赤色顔料使用するが非開示。			

労働安全衛生法: 名称等を通知すべき有害物 第57条の2

酸化チタン 191

ステアリン酸亜鉛 324

*上記、記載含有量は、あくまでも計算値であり実測値ではありません。

4. 応急処置

吸入した場合 : a) 形状から見て、ペレットを吸入する可能性は低い。
 b) 高温の溶融樹脂から発生した分解ガスを吸入して気分が悪くなった場合は、新鮮な空気のある場所に移り回復を待つ。気分が回復しない場合は医師の手当てを受ける。
 皮膚に付着した場合 : a) ペレットや粉末の場合は、石鹸・水で洗い流す。
 b) 高温の溶融物からの発生ガスの凝集物が付着したら水で良く洗うこと
 c) 高温の溶融樹脂から皮膚に付着したら、直ちに水で冷やし医師の診断を受ける。
 目に入った場合 : a) 清水でこすらずに洗浄を行う。その際、できるだけ速やかに医師の診断を受けること。
 b) コンタクトレンズは直に取り外し洗浄を続ける。
 飲み込んだ場合 : 無理に吐かせず、異常を感じるようであれば医師の手当てを受ける。
 応急処置をする者の保護 : 溶融物を除去するときは、やけどをしないように手袋を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤 : 噴霧水、水噴霧、泡、粉末、炭酸ガス。
 特有の危険有害性 : 火災時には、熱分解や不完全燃焼により一酸化炭素、窒素酸化物、二酸化炭素等ガスや黒煙が発生する。
 特有の消火方法 : a) 消火作業は可能な限り風上から行う。
 b) 移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
 c) 移動できない場合は、容器に外部から放水して冷却する。
 d) 火災発生場所周辺は、関係者以外の立ち入りを禁止する。
 e) 消火するための放水により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をする。
 消火を行う者の保護 : 消火作業をする者は、防火服と呼吸器具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	:	道路や床面にこぼした場合は、滑りやすく転倒の恐れがある為、こまめに処理をする。
保護具及び緊急措置	:	作業の際は、適切な保護具を着用し、高温時にはガスを吸入しないようにすること。
環境に対する注意事項	:	流出した製品が河川、水路、下水溝などへ排出され環境へ影響を及ぼさないようにすること。
回収・中和	:	掃き集めて容器に回収したのちに適切に廃棄する。
二次災害の防止	:	付近の着火源となるものを速やかに取り除き、適切な消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

【取扱い】

技術的対策	:	a) 使用時には、飲食・喫煙は行わないこと。 b) 粉末状の製品が存在するときは、粉塵を吸い込まないようにすること c) 床面にこぼれたペレット等は、常に清掃して取り除く。 d) 当製品は、常温では引火、爆発の恐れはないが火災が発生すると火勢拡大が早く消火発動が困難になる。このため作業場では火気をみだりに使用することを避け整理整頓に努める。 e) 機器・設備には静電気対策を行う。 f) 過度に加熱しないこと。 g) 成形機・押出機等を用いて溶融樹脂を取り扱う時にはガスが発生する為、局所排気を実施すること。また、屋内作業では全体換気に努める。
安全取扱注意事項	:	a) 粉塵の堆積により、粉塵爆発を起こすことがあるので取り扱い機器・設備には静電気対策を施し、こまめに清掃を心がける。 b) 加工時に発生するガスは呼吸器、皮膚を刺激する場合があります個人によっては吐き気、頭痛を引き起こすことがあるので適切な保護具を着用し、換気を十分に行う。

【保管】

技術的対策	:	火気厳禁。
保管条件	:	a) 消防法の指定可燃物(合成樹脂類)につき市町村の条例に従い保管する b) 直射日光が当たらない場所に保管する。 c) 水濡れ・高温多湿な場所避けて保管する。 d) 熱源・発火源から離れた場所で荷崩れしないように保管する。
容器包装材料	:	保管条件を満たし、破損しない強度を持った容器包装材料であること。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	:	基準なし
許容濃度	:	日本産業衛生学会は合成樹脂の粉塵に関する許容濃度を定めていないが、次の値を運用するのが妥当と考えられる。 日本産業衛生学会 吸入性粉塵 2 mg/m ³ 総粉塵 8 mg/m ³
設備対策	:	換気装置及び手洗い、洗顔設備などを設置する。
保護具	:	呼吸用保護具: マスク着用が望ましい。 保護眼鏡: ゴーグル型保護眼鏡の着用が望ましい。 保護手袋: 着用が望ましい。 保護衣: 着用が望ましい。

9. 物理的及び化学的性質

* N/A...データなし又は知見のないことを示す(以下も同じ)

色	:	透明レッド色	臭気	:	常温では殆ど無臭
形状	:	固体(ペレット状)	p h	:	該当しない
沸点	:	N/A	蒸気圧	:	なし
融点	:	N/A	揮発性	:	なし
溶解度	:	水に不溶	初留点	:	N/A
比重又はかさ比重	:	N/A	その他	:	-

10. 安定性及び反応性

安定性	:	一般的な保管取り扱いにおいて安定と考えられる。
危険有害反応可能性	:	一般的な保管取り扱いにおいて安定と考えられる。
避けるべき条件	:	直射日光、火気、熱源。
混触危険物質	:	特になし
危険有害な分解生成物	:	燃焼時には、黒煙・二酸化炭素・一酸化炭素・窒素酸化物等のガス発生の恐れがある。

1 1. 有害性情報

急性毒性	:	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	:	分類できない
目に対する重篤な損傷・刺激性	:	分類できない
呼吸器感作性	:	分類できない
皮膚感作性	:	分類できない
発がん性	:	分類できない
生殖毒性	:	分類できない
変異原性	:	分類できない
特定標的臓器・全身毒性	:	単回暴露 分類できない 反復暴露 分類できない
吸引性呼吸有害性	:	分類できない

1 2. 環境影響情報

生態毒性	:	分類できない
残留性・分解性	:	分類できない
生態蓄積性	:	分類できない
土壌中の移動	:	分類できない
その他有害影響	:	水中生物、鳥類が摂取することを防止する為、海洋や水域での廃棄、放出をしてはならない。

1 3. 廃棄上の注意

- a) 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び各自治体の諸条例に従い処理する。
 b) 焼却する時は、承認された焼却施設を用いて「大気汚染防止法」等に従い処理をする。
 c) 本製品使用後の容器包装材料及び本製品を含む廃棄物等の廃棄をする時も同等の処理を行うこと。

1 4. 輸送上の注意

国際規制	:	該当しない
国連分類	:	国連勧告の定義上危険物に該当しない。
海洋汚染物質	:	該当しない
国内法規制	:	消防法における指定可燃物に該当するので、同法の規定に従い輸送する。
輸送特定の安全対策及び条件	:	a) 輸送前に包装容器に破損、漏れ等のないことを確かめる。 b) 荷崩れ防止を確実にしない、水濡れ防止を行なう。 c) 破袋してペレットが飛散した時は滑って転倒しないよう注意する。 d) 空気輸送の場合は、移送速度を緩やかにし、確実な接地等静電気対策を確実にする。

1 5. 適用法令

消防法	:	指定可燃物「合成樹脂類」(3000Kg以上)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	:	廃プラスチック類
労働安全衛生法	:	該当する 名称等を通知すべき危険物及び有害物 該当しない 名称等を表示すべき危険物及び有害物
化審法	:	該当しない
化学物質排出把握管理促進法	:	該当しない
毒物及び劇物取締法	:	該当しない
ロッテルダム条約(PIC条約)	:	該当しない 附属書III掲載物質

1 6. その他の情報

* 「本製品安全データシート」は、当社の製品を安全に使用していただくために、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたものです。

* 記載内容のうち、含有量、構成比率、物理化学的性質などの値は、保証値ではありません。

* ここに記載された内容は、当社保有の情報によるものですが、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。また、内容は、新しい知見に基づき改訂されることがあります。

* 注意事項は、通常の取扱いを対象としたものです。全ての取扱いにおける安全の確保は、使用者の責任において行ってください。